

研究・調査報告書

| | | |
|--|--------|--------------------------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-152 | 23-080 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名 (原題/訳) Longitudinal patterns of alcohol use and psychological symptoms during COVID-19 pandemic and role of alexithymia: A latent transition analysis in the FinnBrain Birth Cohort Study COVID-19 パンデミック中のアルコール使用および心理的症状の経時パターンと失感情症の役割: FinnBrain 出生コホート研究における潜在遷移分析による検討 | | |
| 執筆者 Li R, Kajanoja J, Karlsson L, Karlsson H, Nolvi S, Karukivi M. | | |
| 掲載誌 J Affect Disord. 2023 Oct 1;338:440-448. doi: 10.1016/j.jad.2023.06.056. | | |
| キーワード | | PMID |
| アルコール使用、メンタルヘルス、COVID-19、失感情症;縦断研究、潜在遷移分析 | | 37385387 |
| 要 旨 <p>背景: COVID-19 パンデミックはメンタルヘルスに広範な影響を与えたが、パンデミックの文脈でのアルコール使用と心理的症状の関連、および精神的健康問題の発生を縦断的に予測するうえでの失感情症の特性の役割に関する研究は不足している。パンデミック中のアルコール使用、抑うつ症状および不安症状の関連パターンとその経時的推移を観察することに加え、失感情症の次元特性が、これらの経時的変化を予測可能かどうかについて検討した。</p> <p>方法: 「FinnBrain 出生コホート研究」のサブ研究として、2020年5月時点で5～8歳の児童を持つ親を対象に参加を依頼し協力が得られた856名に対して、パンデミック10ヶ月間(2020年5月から2021年3月)におけるアルコール使用と心理的症状の経時的遷移パターンをモデル化し、失感情症とその構成要素(感情識別困難(DIF)、感情表現困難(DDF)、外向的思考(EOT))との関連について検討した。潜在特性分析(LPA)および潜在遷移分析(LTA)により、①各時点において、指標の回答パターンを抽出、②LPAの時系列的遷移の検討(LTA)、③共変量を含めた検討の順で行った。</p> <p>結果: 失感情症などの調査項目を充足した720名を分析対象とした。LTAにより、①アルコール使用に関連する問題のレベルは比較的高いが、抑うつ症状や不安症状が低い(C1) ②アルコール使用問題のレベルは低いが、心理的症状のレベルが高い(C2) ③すべての指標が低い(C3)の3つの遷移パターンを特定した。失感情症はC3よりもC1、C2との関連がみられ、経時的にはC1にとどまる(OR=1.056(95%CI:1.015-1.099))か、C1からC2(OR=1.068(1.019-1.118))、またはC3からC2(OR=1.059(1.005-1.116))への遷移を予測した。またDIFについてもC1、C2との関連があり、経時的にはC1にとどまる(OR=1.112(1.004-1.232))か、C1からC2(OR=1.184(1.057-1.326))への遷移を予測した。DDFはC1、C2との関連があり、経時的にはC1にとどまる(OR=1.135(1.023-1.259))か、C1からC2(OR=1.137(1.002-1.290))、C3からC2(OR=1.140(1.006-1.292))への遷移を予測した。EOTは、経時的にC1にとどまる(OR=1.113(1.028-1.204))か、C3からC1(OR=1.138(1.031-1.257))への遷移を予測した。</p> <p>結論: 本研究の結果は、アルコール使用と心理的症状の縦断的な発展に対する深い洞察を与えるとともに、メンタルヘルスにおける失感情症の役割に関するエビデンスを提供し、臨床的な予防および治療的な対応を考えるうえで役立つと考えられる。</p> | | |